

図書館だより

2025 年5月号 (NO.183)

大竹市立図書館



〒739-0605 大竹市立戸1丁目6-1

TEL 0827-52-5338

<http://www.tosho.otake.hiroshima.jp/>

5月 (May)						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月 (Jun)						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

←○はお話会・■は休館日です

☆開館時間

10:00~18:00

(日曜日 9:00~17:00)

☆貸出冊数 1人10冊

(うちAV資料2点)

☆貸出期間 2週間



HP



YouTube



お知らせ



おはなし会

☆おひざにだっこのおはなし会 (赤ちゃん向け)

5月9日 (金) 10:30~【毎月第2金曜日】
ギャラリーおおたけ3

☆親子で楽しむおはなし会 (1歳以上向け)

5月9日 (金) 11:00~【毎月第2金曜日】
ギャラリーおおたけ1

☆おはなし会 (幼児・小学生向け)

5月17日 (土) 11:00~
図書館1階おはなしの部屋

図書館員おすすめ本

『ファラオの密室』

白川 尚史/著 (宝島社)

本作は2024年『このミステリーがすごい!』大賞を受賞した作品です。

舞台はトウトアंकアテン (ツタンカーメン) 王が即位したばかりの古代エジプト。死んでミイラにされた神官のセティは、自分の死の真相を探るべく地上に戻って来ますが、先王のミイラが密室状態のピラミッドから消失するという謎に直面します。なぜか周囲の人たちが死人のセティと自然に接する不思議な世界 (古代エジプト人だって本当に死んだ人間が歩き回っていたら震え上がると思います) で、密室トリックも特殊な背景ならではのからくりで行われています。趣の変わったミステリーですが、様々な人間模様もあり、ハイテンポで読みやすい作品です。

図書館クイズに挑戦しよう!

期間: 令和7年4月18日 (金) ~ 5月11日 (日)

対象: 幼児から小学生

場所: 児童コーナー



今年も釣りで問題
を釣るよ!



予約ベスト5

- | | |
|---------------|--------|
| 1. 架空犯 | 東野 圭吾 |
| 2. 月収 | 原田 ひ香 |
| 3. クスノキの女神 | 東野 圭吾 |
| 4. 謎の香りはパン屋から | 土屋 うさぎ |
| 猫の刻参り | 宮部 みゆき |

図書館からのお知らせ

※不審者等対策のため、職員が防犯ブザーを携帯しております。迷惑行為等があれば、ブザーを鳴らす場合がございますので、ご了承下さい。

新刊案内



子どもの本

「もし、自分がブサイクだと思ったら」

日本児童文学者協会／編
いちろう／絵
(偕成社)

もし、ブサイクと言われて自分が嫌になったら、どうすればいい？ 友達と同じ「推し」ができてしまったら？ 親と意見がすれちがってしまったら？ 人間関係の悩みによりそう、5つの短編を収録。



「そうだったのか!カタツムリとナメクジ」

嶋田 泰子／著
はた こうしろう／絵
(童心社)



「くらげのパポちゃん」

かこ さとし／文
中島 加名／絵
(講談社)



おとなの本

「戦争とミステリー作家 なぜ私は「東条英機の後輩」になったのか」

西村 京太郎／著
(徳間書店)

戦前の長屋暮らし、戦時下の生活、将校を目指した陸軍幼年学校時代、職を転々とした終戦後、京都への移住…。トラベルミステリーの巨匠・西村京太郎が記した自伝的超克の書。『東京新聞』連載を書籍化。



「世界一わかりやすい腕時計のしくみ 人気ブランド傑作モデル編」

高木 教雄／著
(世界文化社)



「おれは老人？」

勢古 浩爾／著
(清流出版)



一般展示 『鳥』

「桜風堂ものがたり」
村山 早紀／著 PHP 研究所

万引き事件がきっかけで、長年勤めた書店を辞めることになった青年。しかしある町で訪れた書店で、彼に思いがけない出会いが…。田舎町の書店の心温まる奇跡を描いた長編小説。

時事展示 『江戸かるちゃー』

「秘密の花園」
朝井 まかて／著 日経BP日本経済新聞出版

馬琴は当代一の戯作者・山東京伝の門をたたき、戯作の道に踏み出した。人気作者になるが、馬琴は滝沢家再興の夢を捨てず、締切に追われながら家計簿をつけ、庭の花園で草花を丹精し…。

児童展示 『そらをとぶいきもの』

「プテラノドンのそらとぶいちにち」
竹下 文子／文 偕成社

白亜紀後期。いまからおよそ 7000 万年前。空飛ぶ翼竜プテラノドンは、魚をとりながら、こんな一日をおくっていた…らしい! 扉をひらいて、恐竜の時代をのぞいてみよう。

児童ミニ展示 『たまご』

「たまたまたまご」
内田 麟太郎／文 文研出版

森の中に突然現れた、とんでもなく大きいたまご。一体だれのたまごなの? ゴリラ、ワニ、ダチョウが一生懸命考えていると、森一番の物知りのゾウが「これは恐竜のたまご」と言いました。すると、たまごがかえって…。